

4 グローバル化に対応した活力ある社会の構築

地域の特性に応じた魅力的なまちづくり

《主な施策》

●環境に配慮したまちづくり

- ・地域材を利用するなど環境負荷の低減を図る公営住宅の整備
【市町村営住宅：親交団地（北見市）、静内柏台団地（新ひだか町）など】
- ・北海道の住宅の新たなスタンダードである北方型住宅2020の普及推進
【南幌町みどり野きた住まいのヴィレッジ（道、南幌町、関係団体）など】
- ・下水道施設の改築更新の推進
【石狩川流域（滝川市ほか）、函館市、小樽市など】
- ・合流式下水道の改善の促進
【滝川市、士別市、千歳市など】
- ・普及率の低い町村部の下水道の整備
【岩内町、浦河町、足寄町、木古内町など】

●持続可能なコンパクトなまちづくり

- ・中心市街地に安心とにぎわいを創出するまちなか居住の推進
【道営住宅：わかば中央団地（岩見沢市）、市町村営住宅：堀川団地（釧路市）など】
- ・魅力ある地域景観を創出する街なみ環境整備の推進
【鷺泊（おしどまり）市街地地区（利尻富士町）、都市景観形成地域（函館市）など】
- ・既存公営住宅の建替や長寿命化などによる良質な住宅ストックの形成
【道営住宅：大麻宮町団地（江別市）、市町村営住宅：西団地（美深町）、
緑丘団地（赤井川村）など】
- ・地域経済や環境負担低減に寄与する良質な民間住宅の整備
【地域住宅政策推進事業（道内全域）】
- ・空き家等対策の推進
【空き家再生等推進事業・空き家対策推進事業（道内全域）】
- ・中心市街地・商店街の活性化を目指したまちづくりの推進
【大野市街通（北斗市）、1・7地区優良建築物等整備事業（旭川市）など】

▼地域の特性に応じた魅力的なまちづくり

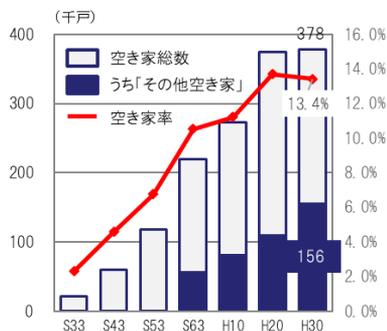
○南幌町みどり野きた住まいのヴィレッジ（南幌町）



○中心市街地に安心とにぎわいを創出する公営住宅（旭川市）



○道内における空き家の状況



出典：住宅・土地統計調査
「その他空き家」：賃貸用、売却用などを除いた空き家

○商店街の活性化を目指したまちづくりに寄与する大野市街通（北斗市）



重点項目 ○北海道の強靱化と社会資本の老朽化対策等の推進（P37）

▼環境に配慮したまちづくり

○下水道施設の改築更新

①使用料による老朽化対策は困難（厳しい運営）

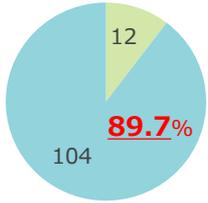
・経費回収率（116市町村）

※経費回収率
下水道使用料収入÷汚水処理経費

平均経費回収率 **64.2%**

【参考】下水道料金（20m3当り）

高い自治体	夕張市	5,008円
	三笠市	4,979円
安い自治体	札幌市	1,371円



■ 100%以上 ■ 100%未満

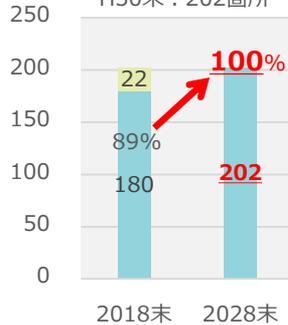
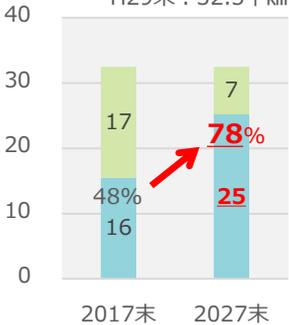
②老朽化の加速（長寿命化対策の実施が急務）

・管渠（30年以上経過）

・処理場（15年以上経過）

単位：千km H29末：32.5千km

単位：箇所 H30末：202箇所



■ 30年以上 ■ 30年未満

■ 15年以上 ■ 15年未満

①道民生活への影響

- ・老朽化した管渠の破損に伴う道路陥没
- ・老朽化に伴うトイレ等の施設の使用停止

- ・公共サービスの低下
- ・公衆衛生の確保や公共用水域の保全が困難

経費回収率の低い自治体

使用料での対応は困難

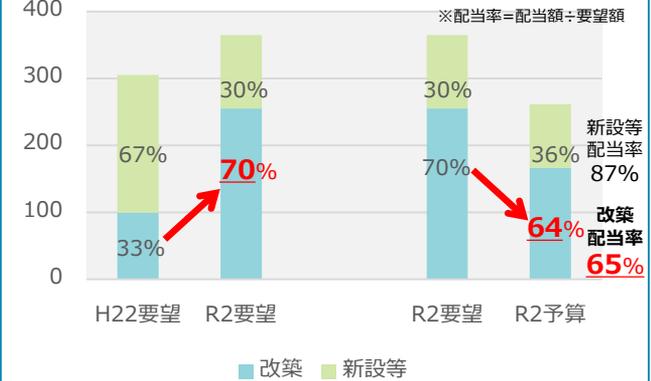


②自治体の要望は新設から改築更新へ

・改築更新の要望額

・R2改築更新の予算配当

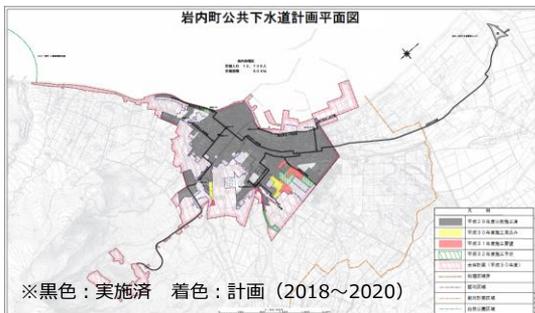
単位：億円 「10年で2倍以上」 「新設等より配当率が低い」



これまで以上に下水道施設の改築更新に係る予算の確保が求められる

○普及率が低い地域における下水道施設の整備（岩内町）

◇下水道整備状況



※黒色：実施済 着色：計画（2018～2020）

◇下水道処理人口と普及率の推移

	H17末	H22末	H30末
下水道処理人口	4,462人	6,645人	8,352人
下水道普及率	27.3%	44.7%	67.0%

◇環境の改善（銚内（おもない）川）



近隣住民の声
河川からの悪臭
が少なくなった

